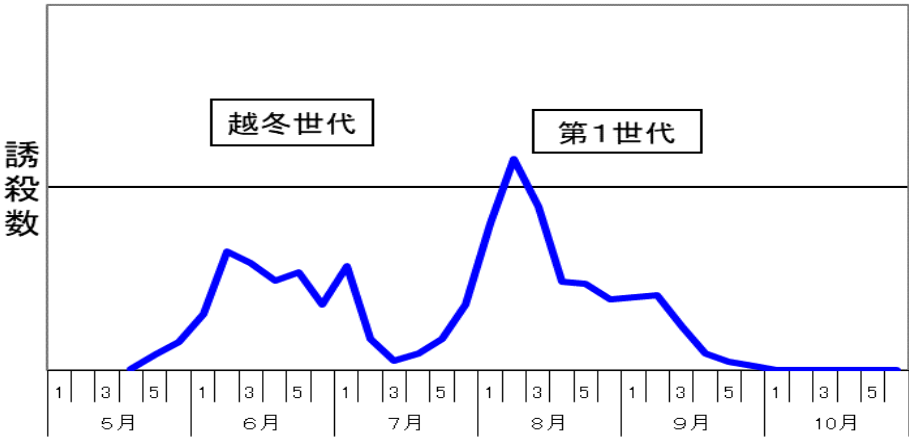


モモシンクイガのフェロモントラップ誘殺消長（令和7年（2025年）調査）

病虫害防除部

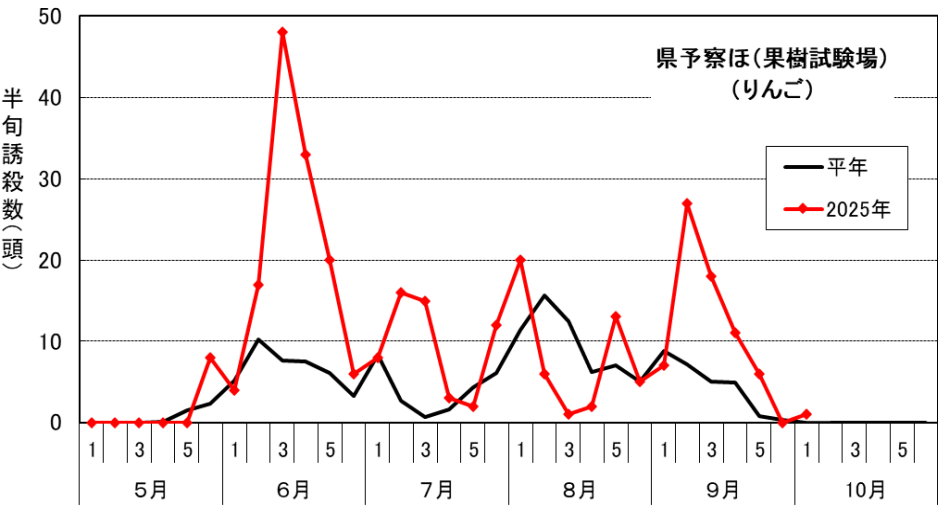
過去10年間の消長模式図（果樹試験場内 試験場予察ほ）



【発生生態と防除のポイント】

- ・標高 600m以下の平地では年2回が大半である。
- ・準高冷地及び日照の少ない山沿いでは年2回発生が主体で、1回発生が混在する。
- ・越冬世代成虫は6月上旬から始まり、7月に入ると盛んになり、8月上旬まで続く。産卵は7月になると急増し、産卵最盛期は7月中下旬で、大半はがくあ部に産みつけられる。
- ・第1世代成虫は8月上旬から発生し、発生最盛期は8月中～下旬である。産卵最盛期は、成虫の発生期とあまり変わらない。
- ・防除はふ化幼虫の食入防止を中心とする。6月下旬から概ね2週間間隔で9月上旬まで防除する。特に7月中下旬と8月中下旬は重要な防除適期である。

○県予察ほ（須坂市 果樹試験場）



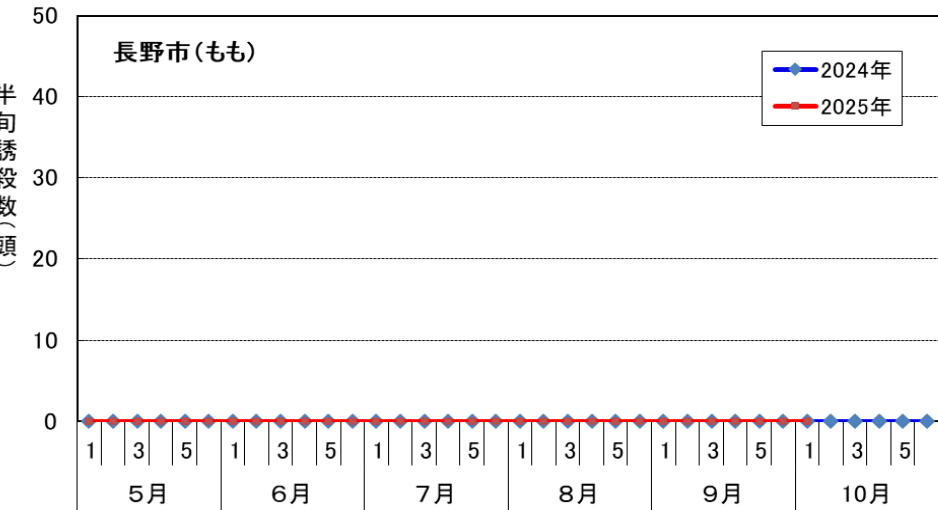
【調査地点】（標高約 350m）

- ・須坂市 長野県果樹試験場（りんごほ場）
- ・平年は2015年～2024年の平均値

【コメント】

- ・平年では代位世代成虫の飛来は7月下旬から9月中旬までの大きな山となっているが、本年の発生は、その期間に明らかな誘殺ピークが3回あった。
- ・誘殺がなくなるのは平年とほぼ同じ9月末であった。

○長野市・須坂市（病虫害防除部）



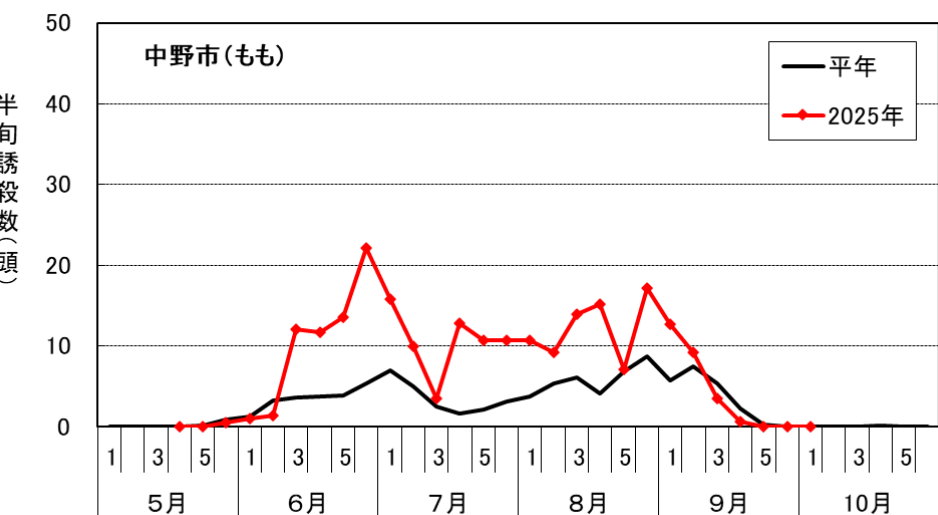
【調査地点】（標高約 370m）

- ・長野市（ももほ場）
- ・2024年からほ場変更したため、平年値なし。

【コメント】

- ・他の設置場所ではみられるモモシンクイガも、本地点は10月第1半旬時点でも誘殺が観測されていない。

○中野市（北信農業農村支援センター調査協力）



【調査地点】（標高約 370m）

- ・須坂市（りんごほ場）
- ・平年は2015年～2024年の平均値

【コメント】

- ・越冬世代成虫の誘殺数が多かったため、第1世代成虫の誘殺も増えることが予想されたが、7月下旬に数頭記録されただけで、10月第1半旬時点で明確な第1世代成虫の誘殺ピークは観察されていない。

【調査地点】（標高約 370m）

- ・中野市（ももほ場）
- ・2025年は5月中旬に設置

【コメント】

- ・第1世代成虫の誘殺開始後、平年より多い状態がずっと続いていたが、9月第3半旬で平年を下回り、第5半旬には誘殺がみられなくなった。